

天気		きょう	あす
6時	9時	12時	15時
18時	21時	24時	
京都		13℃	15℃
宇治		13℃	15℃
舞鶴		13℃	14℃

週間天気		京都	宇治
21日(金)	15℃	22日(土)	16℃
23日(日)	15℃	24日(月)	12℃
25日(火)	11℃	26日(水)	11℃

のち	5時	5時以上
一時々	5時	5時以上
数字(上)	最高気温	
数字(下)	最低気温	
丸囲み	降水確率	
△	50%以上	
△	は正午の風向き	
△	矢印なしは無風	

味ひとすじ むかし
ひひ月
新築極上邸工・でんわ 221-2412

京都

廃プラから活性炭

龍谷大など作成に成功

不純物が混じった廃プラスチックから高性能な活性炭を作ることに成功した。龍谷大と大津市の企業が発表した。ペットボトルなどを含むプラスチック(PPET)以外のプラスチックや樹脂が3〜5割含まれるクラウンにけられ、活性炭の原料となる。活性炭は、大津市で炭素素材を扱う大木工業は、Bランクの廃プラスチックを特別に炭化し、車やエアコンのフィルター、消臭剤に使える高性能な活性炭を作った。この活性炭で水中のヨウ素吸着性能を調べたところ、一般的な活性炭に比べ、吸着性能が約1.5倍向上した。大津市で活性炭素材を扱う大木工業は、Bランクの廃プラスチックを特別に炭化し、車やエアコンのフィルター、消臭剤に使える高性能な活性炭を作った。この活性炭で水中のヨウ素吸着性能を調べたところ、一般的な活性炭に比べ、吸着性能が約1.5倍向上した。



「IS」の支配と戦ったイラクの子供たちについて講演する千原康平記者(左)と木葉健二記者—京都市北区で

活性炭の材料には一般にヤシの殻が使われているが、現在は世界で需要が高まり供給が追いついていないという。廃プラスチックが新たな原料になる可能性がある。

2020年4月から休寮

老朽化と財政難で存続の危機にある「京都国際学生の家」(京都市左京区)が、2020年4〜8月に休寮し、改修と耐震補強を行うことになった。1965年開設で1000人超の国内外の若者を受け入れてきた留学生寮の先駆的存在で、2億5000万円の募金を前提に改修計画を立てていたが、寄付は2000万円にとどまり、今月の理事会で計画の縮小を決めた。「地震への備えは待たないで、続けてほしい」との声にも後押しされた。運営する公益財団法人の海博司理事長は語る。

寄付2000万円 目標下回る

募金は継続 改修と耐震補強へ

募金は昨年10月に開始。当初の計画は、学生に生活を送ってもらうため、改修と補強を進め、研究者に短期滞在する別館を建て替えることとしていた。だが、いったん全員に退寮して、もう一度改修と補強を短縮し、別館は取り壊すことと、耐震工法や改修箇所も見直した。

京都国際学生の家



開設から半世紀がたつ「京都国際学生の家」。鉄製の窓枠はさびびり劣化しているため取り替える計画だったが、窓の入れ替えだけであきらめると海博司理事長は言う—京都市左京区で

万円の赤字だが、改修後はそれぞれ値上げして、本館の間取りを狭くして、研究者向けの部屋を増やす。しばらくは運営を続けられると見通すが、運営安定に欠かせない別館の建築費(7000万円)をどうするかは白紙という。これまで集まった寄付金2000万円のうち半分は、東西交流学が専門だった村形明子・京都大名義教授(昨年9月に死去)から遺贈された。海外在住者を含め、卒業生から計400万円が寄せられたという。

空き家対策推進に向けた協定の締結式に臨む専門団体の責任者ら—京丹後市峰山町で



京丹後市は18日、空き家対策を促進するため京丹後市と協定を締結した。空家問題は、年々増加して深刻な社会問題となっているが、相次ぐ高齢化と人口減少により、市だけでなく、関係する市町村でも、空家対策を推進する必要がある。京丹後市は、京丹後市と協定を締結した。空家問題は、年々増加して深刻な社会問題となっているが、相次ぐ高齢化と人口減少により、市だけでなく、関係する市町村でも、空家対策を推進する必要がある。

「阿弥陀三尊像」は行快作

「足ほぞ」に墨書き

来年4月、京博で特別展示



京都市左京区の閑名寺の「阿弥陀三尊像」が、鎌倉時代の仏師快慶の一番弟子だった行快作と分かった。京丹後市立博物館が17日発表した。行快の銘が入っているのは、今回を含め10例しかなく貴重発見という。

本当のイラク知って

本紙記者ら取材経験語る。立命大。京都市北区の立命館大で、大空襲キャンペーンの一環で、今年8月に中東のイラクを訪れ、過激派組織「イスラム国」(IS)の支配と戦闘で傷ついた子どもたちや家族を取材した。2人は毎日新聞が統一取材経験語る。

京丹後市「5」団体と協定を締結した。空家問題は、年々増加して深刻な社会問題となっているが、相次ぐ高齢化と人口減少により、市だけでなく、関係する市町村でも、空家対策を推進する必要がある。